

抗 Rpn12 (*S.cerevisiae*) 抗体, アフィニティ精製

62-209 50 μ l

プロテアソームはユビキチンで修飾されたタンパク質を分解する酵素である。ユビキチン-プロテアソームによる分解システムは、傷害を受けたりミスフォールドしたタンパク質を除去するのみならず、細胞周期制御、免疫応答、シグナル伝達といった細胞内の様々な働きに関わっている(文献1)。活性型の26Sプロテアソームはタンパク質分解実行ユニットである20Sプロテアソームの両端に、それを制御する19S複合体が会合した巨大な分子複合体である。19S複合体はさらにbase(基部)とlid(蓋部)に分けられる。**Rpn12**はlidのnon-ATPaseサブユニットのひとつで、基部のATPaseサブユニットであるRpt1と相互作用する。**Rpn12**とRpt1の二重変異株では致死性的となり、**Rpn12**とRpt1の強い相互関係が示唆される。**Rpn12**とRpt1の二重変異株では26Sプロテアソームの機能が完全に阻害される。

用途:

- 1) ウェスタンブロッティング (1/5,000~1/10,000 希釈)
- 2) 免疫沈降

その他の用途は試されてない。

製品: ウサギ・ポリクローナル抗体、アフィニティ精製

抗原: 大腸菌に発現させたリコンビナント酵母 Rpn12

形状: Affinity purified IgG in PBS, 1 mg/ml BSA, 0.09 % sodium azide, 50% glycerol

反応特異性: *S. cerevisiae* Rpn12 他の種については試されていない。

保存: 4℃または -20℃で送付、-20℃で保存

データリンク: SGD [RPN12/YFR052W](#)

文献: この抗体は文献2で用いられた。

1. Hershko A and Ciechanover A "THE UBIQUITIN SYSTEM." *Annu. Rev. Biochem.* **67**, 425-479 (1998) PMID: [9759494](#)
2. Takeuchi J and Toh-e A "Genetic evidence for interaction between components of the yeast 26S proteasome: combination of a mutation in RPN12 (a lid component gene) with mutations in RPT1 (an ATPase gene) causes synthetic lethality." *Mol Gen Genet* **262**:145-153 (1999) PMID: [10503546](#)

Related products: # [62-201 anti-Rpn3](#), #[62-203 anti-Rpn5](#), #[62-205 anti-Rpn7](#), #[62-207 anti-Rpn9](#), #[62-211 anti-Nob1](#), #[62-213 anti-Nas6](#), #[62-215 anti-Tem1](#)

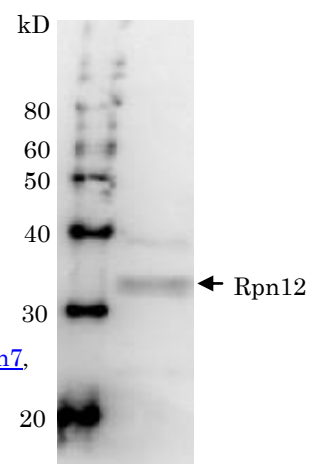


図1 *S. cerevisiae* 粗抽出液でこの抗体を用いたウェスタンブロッティングを行い、Rpn12 (32kD) を検出した。